

これからの倉吉パークスクエア多目的広場遊具のあり方検討会について（報告）

1 日 時 令和8年9月8日（火） 15:00～17:00

2 場 所 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

3 検討委員 学識経験者1名、子どもの保護者4名、行政関係職員3名 計8名

4 内 容 老朽化した多目的広場遊具の更新を検討するために、遊具のあり方検討会を実施。6月開催の第1回の検討会では、実際の遊具を見ていただき、各委員からご意見をいただくとともに多目的広場の遊具に関するアンケート案について検討いただいた。その後、7月1日から31日にかけて1ヶ月間アンケートを実施。今回の第2回検討会では、アンケート結果を踏まえプロポーザルコンペに盛り込むための要求水準書項目について検討いただいた。

【アンケートの結果に対する各委員からの主な意見】 ※アンケート結果は別紙のとおり

<全体>

- ・アンケートはQRコードでとったものにしては回答率がよい。
- ・直接屋外遊具の現場から聞き取りしていただいたこと、そして倉吉養護学校からも聞き取りをしていただき、利用者の意は酌めていると思う。

<問3 遊具を使用する頻度>

- ・「月1回程度」の回答が多いこと、また直接の聞き取りでは利用者の半数以上が県外からということから、デイリーユースではなく“特別感”がある屋外遊具ということか。

<問4 既存遊具のうち好きな遊具は>

- ・ここの遊具は保護者が一緒に来ている低学年の子が多いイメージ。あまり高学年を対象にした遊具に振り切る必要は無いかも。
- ・自分の子どもに聞いてみたが、究極「すべり台」と「ブランコ」があればいいと言っていた。これらは年齢も幅広く利用できるのではないか。
- ・鳥取県中部地区には各町にそれぞれ特徴ある公園があり、棲み分けすること必要では。

<問8 障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめる遊具の必要な機能は>

- ・障がいの程度にもよるが、障がいのある子が楽しめるものは未就学児でも楽しめるのではない。1つか2つでも共有できる遊具があると良い。子ども同士の交流にもつながる。
- ・障がいのある子と一緒に遊ぶ機会が無いので、どうやって一緒に遊んだらよいか分からない。

<問10 遊具の上に全体を覆うような屋根などの日よけや雨よけが必要か>

- ・8割以上の方が「必要」と答えられているが、屋根についてはどの程度にするのか。必要最低限にするのか。

【要求水準書項目に対する各委員からの主な意見】

<(1) 全体>

- ・子どもの遊び環境研究の第一人者の仙田満氏（建築家・環境デザイナー）は、「子どもたちのための公園・遊び場づくり」の考え方に、独自の「遊環構造（ゆうかんこうぞう）」という「循環」を大事にする、以下の6つのポイントを指摘している。

① 循環機能があること

行き止まりがなく、グルグルと回遊できる「道（ルート）」があること

② 循環路（道）が安全で変化に富んでいること

単調な道ではなく、登り下りや狭い場所など、ハラハラする変化があること

③ 記号性（シンボル性）の高い空間・遊具があること

「あそこに行こう」と目印になる、ワクワクするタワーや拠点があること

④ 〈めまい〉を体験できる部分があること

回転、スピード、高低差など、身体的にスリルや非日常を感じられる要素があること

⑤ 近道（ショートカット）があること

正規のルートを外れて、飛び降りたりすり抜けたりできる「抜け道」があること

⑥ 循環路に「広場（たまり）」が取り付いていること

動き回る動線の途中に、集まったり休憩したりできるスペースがあること

- ・事業期間、事業費、敷地の範囲をきちんと詰めておくことが大切。
- ・保護者が子どもを見守るためには、視認性・見通しの良さや日陰の場所があると助かる。

<（２）遊具等>

- ・子どもの健康という観点では、屋外遊具は身体的健康、精神的健康、社会的健康の育成につながるものが良い。判断力や使い方など子どもは自分で想像して遊ぶことができる。
- ・シンボル設置の優先順位は低い。
- ・走り回って大きい子と小さい子がぶつかったりする危険がある。余裕のある空間がいいかも。
- ・安易すぎるゾーニングは避けるべき。単に年齢や障がいの有無でゾーニングするのではなく、活動量で分けるべき。
- ・障がいの程度は様々。ユニバーサル遊具にこだわるとどっちつかずになり限界がある。すべての子どもに１００点の遊具は難しい。
- ・ユニバーサルの考え方については、遊ぶだけでなく、「居りやすい空間づくり」、「行って心地良い空間」にすることも必要では。
- ・ランニングコストやメンテナンスのしやすさについても十分考慮が必要。自町で現在設置している屋外遊具の塗装がすぐに劣化してしまう。
- ・屋根については費用のこともあるが、素材など耐震性や耐久性も重要。
- ・植栽の管理や草刈り、伐採した枝の搬出ルートなども考慮しておくべき。
- ・アンケート結果にも出ているが、現在の屋外遊具には日陰がなく、保護者にとっては使い勝手が悪い。環境改善されれば利用しやすくなる。

～バスケットリングについて～

- ・中学生が夕方使っている。使う子がいる限り無くすべきではない。
- ・バスケットリングがあることで、多目的広場のシンボリックなものとして捉えることもできる。周辺町の公園との差別化も図れる。
- ・今あるものを無くすと、反発が出そうな気がする。
- ・バスケットは分けた方がいい。
- ・自町では公園整備の際にバスケットリングの整備の話もあったが、立地上、安全性の確保のために費用が高額になってしまうこともあり整備を断念した経緯がある。
- ・バスケットのリングを無くすなら、それに代わる３×３、またスケートボードなどができるところが別にあればいいなと思う。

【検討会委員からの付帯意見】

- ・設置費用については、ネーミングライツやクラウドファンディング、企業版ふるさと納税などの財源を確保するなどして、子どもたちが楽しめるより充実した屋外遊具を設置してほしい。
- ・3×3などのバスケットコートをこの多目的広場に作ることは敷地的にも難しいと考えるが、一方で撤去となると中高生が遊べる空間が無くなることは寂しい。3×3バスケットボールやスケートボードなどのアーバンスポーツが楽しめるような中高生の居場所を別途整備してほしい。

5 今後の予定

検討会からの意見を反映し要求水準項目をまとめ、プロポーザルコンペを実施するための募集要領等を作成。今後、予算要求（令和8年12月補正）及びプロポーザルコンペ（令和9年1月～2月）を予定。工期は、令和9年3月以降の約1年の工期を見込む。